



関西いのちの電話



白川郷 撮影：中村 伊三信



「命は自分で守るしかないけれど」

桃山学院大学副学長

関西いのちの電話 評議員 石田 易司

台風21号が日本を襲った10月の日曜日の夜、テレビで選挙の開票の様子を見守ることに忙しかっただけで、携帯電話の避難勧告を告げるピンポンピンポンの音がずっとなり続けていた。大和川の堤防が決壊しそうだから避難の準備をしてくださいと、市役所危機管理室からの勧告なのだ。

我が家は大阪市内ではあるけれど、大和川に近い南東の端っこにあるH区N地区。阪神淡路大震災の後に立てた家なので、構造もしっかりしているし、大阪平野の只中だから、崩れてきそうな山もない。それなのに電話はピンポンピンポンなり続ける。

大和川があふれそうだというのだ。外は大雨でしかも風も強い。不見識で申し訳ないのだが避難場所もわからない。何回か鳴った携帯に示されている避難場所は隣のY市の小学校。大阪市以外の市からも勧告が流れてくるのだ。愛犬ごん太の散歩コースに入っているくらい、確かに近いところには違いないけれど、行政区が違うよその市民が行っても、ちゃんと対応してくれないだろうという悪い想像が広がる。

板の間の体育館で、濡れた体を温めることができる

だろうか、ゆっくり眠れるだろうかとも思うし、選挙結果の続きをテレビで見ることができようかとも思う。

この風雨の中、行政からの指示であっても勧告であっても、とにかく気分は避難所には行きたくない色一色なのだ。それなのに携帯電話はまだまだなり続ける。もう2階で眠ってしまうに限ると、ベッドに入った。

日本列島、台風や大雨が来るたびに各地で死人が出る。その避難勧告や指示の情報をテレビで見ている、いつも思うことがある。「××村△△地区の10世帯12人に避難勧告が出されました」というテロップが流れるのだが、地区住民の人数の少なさに驚くと同時に、そのほとんどが一人暮らしに思えるくらい、世帯数と人数の差がほとんどない。大半が一人暮らしで、夫婦、あるいは親子二人が少しいるのかなと思える数なのだ。

我が家も夫婦二人。眠れない夜のベッドの中での緊急通報でない電話の音。A県に住む息子からの電話。「大丈夫？」

言葉は少なかったけれど、その一言で安心して眠れるような気がした。

関西いのちの電話 相談電話 (24時間365日) ☎06-6309-1121

自殺予防いのちの電話 毎月10日 午前8:00 ~ 翌日午前8:00 ☎0120-783-556

関西いのちの電話 第22回チャリティーコンサート

関西学院グリークラブコンサート

KWANSEI GAKUIN GLEE CLUB

開催日：2017年8月25日(金) 会場：いずみホール

8月25日、いずみホールにて、関西学院グリークラブコンサートが開催されました。まだまだ日中の火照りの残るなか、参加者は552名と多くの人にお越しいただきました。

第1ステージは歴代の校歌集、校歌でステージが組めるというのは大変めずらしく、さすが118年の歴史を誇る関西学院グリークラブだけあります。若人の伸びやかな明るい声、テナーの張りのある響き、白いブレザーを着こなしびしっと整列して歌うさまには風格が感じられました。第2ステージはブラックスピリチュアルズを含む外国の男声合唱曲でした。アップテンポの曲、バラード、黒人霊歌、また大学生活の門出の曲として「Sailing, Sailing」と色彩の異なる曲を、柔らかく美しいハーモニーで聴かせてくれました。バリトンパートソロの掛け合いも楽しく、若さあふれる清潔な印象の演奏でした。第3ステージは歌い継がれてきた日本の合唱曲や民謡、加えて中島みゆきの「地上の星」など親しみやすい歌曲でした。やはり日本の言葉には心響くものがあります。繊細に言葉が浮き上がって来て体の中にしみこむ感覚、またユニゾンになった時の大迫力にも圧倒されました。第4ステージは「Barbershop Showtime!」と題し、黒いブレ



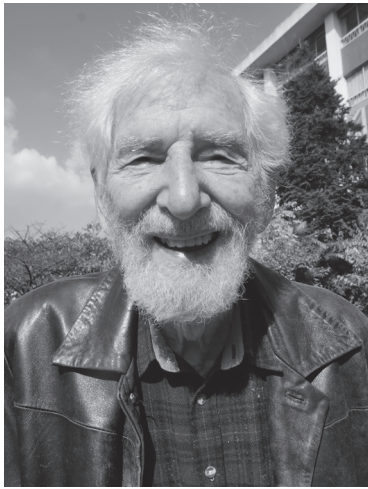
ザーに衣装を替えてのステップもスナップも軽やかな楽しい演奏でした。自由に音やリズムを感じながら、ハーモニーを楽しみながら、音楽の楽しさを体現して聴かせてくれました。アンコールは関学グリーの十八番である「ウ・ボーイ」。これを聴かなきゃ帰れない！圧倒的な迫力で歌い上げるその魂の歌声は、伝統とそれを支えてきた人々の思いがあふれ、鳥肌が立つほどの圧巻でした。

若人のみずみずしい張りのある声が力強くホールいっぱいに鳴り響き、また男声合唱の柔らかさ、豊かさに魅了され、人の声のぬくもりに包まれた時間でした。ステージのバリエーションの豊富さに驚かされるとともに、それらを歌いこなす力量にも感動しました。何人ものソリストが登場し、ソリストの声はそれぞれ違うのに、ましてメンバー一人ひとりも全く違う声を持っているであろうに、多くの声が集まり包容力のある、厚みのある響きが湧きあがってくるのは素晴らしいことでした。

彼らの歌声を聴き、いのちの電話の相談員の思いも、一人ひとりとは違っても、ひとつの目的に向かい集まれば、大きな力になると確信しました。若者の瑞々しく、また深いハーモニーに身を任せ、魂が揺さぶられる感覚を味わいながら、そんなことを考えさせてくれる素晴らしいコンサートでした。



エルダーものがたり VII ～ (1948～1949) ～



2017年11月「バザー」にて

大学院コースは3年間だったが、奨学金があって、仲間と安い部屋を見つけて、いいアルバイトも出来て、安心して勉強に打ち込んでいた。そこへ教会の海外宣教部から、日本の教会で、キリスト教主義の学校などで英語を

教える人を3年間の契約で募集しているが、あなたは行きませんかという手紙がきた。確かに私は戦後の日本のことを気にしていた。しかし、私は、卒業するまでの道は保障されている。他の人が行けばいいと思っていた。

でもなぜか、その手紙はまだ目の前にあった。どうすべきか真剣に考えて祈った。友達に相談したら、「バカだ」と言われたが、締め切りの日に電報で申し込んだ。

ニューヨークで6週間の研修が終わり、メンバーの50人が4、5人のグループで船に乗って日本に向かった。私は、5人のグループで、8月の半ば、貨物船に乗るはずだったが、サンフランシスコに着いた途端に運悪く船員ストライキになった。仕方なく、ある新聞広告に応募して、ヨセミテ国立公園の高級ホテルの食堂でボーイを3ヶ月やった。その間、半額で利用できるツアーや乗馬を楽しんで、11月半ばシアトルから出航した。海は静かで綺麗。12日間の旅行を楽しもうと思ったら、広い海に出た途端に大嵐！大波に船が揺れる。沈むか、もう一度頭を上げて頑張るかという感じだった。皆たちまち船酔いをした。「晩ご飯要らない!!」ベッドにしがみ付いて、どうにか夜を過ごした。

翌朝目が覚めたら、まったく静かだった。外を見ると大きな倉庫が見えた。「何だ、これは」と思った。夜中に船が故障して、修理できる波止場に3日間も留まった。また出航した時も、嵐の連続だったが、もう私達は慣れてきて、最後にはその嵐を有難く思った。というのは、横浜港には沢山の船が碇を降ろしてドック入りを待っていた。私達の船は翌日になるはずだったが、嵐で碇を降ろす機械が流されたので「お先に」と直ぐドックに入れてもらえた。そんな風にして、やっと日本の地を踏むことができた。

一緒に行くスミスさんと2人で二晩、東京の宣教師の

家で泊まって、日本のお風呂の使い方を教えてもらった。気持ちよかった！そして翌朝、契約が決まっていた諫早市にある鎮西学院に向かって、長崎行きの雲仙号に乗った。窓から見た日本は綺麗。家の屋根の形や色、畑や水田の曲線は美しい。冬のアメリカと違って緑は多い。しかし、いつも人が住んでいるところを通っていて、田舎はないと思った。

2日後の夕方、目的の諫早に着いた時は、すごい歓迎ぶりだった。私達の住まいに案内されて、「お風呂が沸いているが日本のお風呂の使い方が分かっているか」と聞かれたので、自信満々で「はい」と答えて、私は最初に行った。東京で入った檜風呂と違う。こちらはコンクリートで固まっている大きな鉄の釜だったが、基本は同じだろうと思った。お湯を汲むために蓋を取って見るともう1つ蓋がある。「日本人は賢い。体を洗っている間に冷めないように二重にしている」と思った。体を洗って「二つ目の蓋」を外して入った。0.2秒ぐらい入って、飛び上がった！これが五右衛門風呂との出会いだった。

1週間後、長崎市内の学校に行った女性仲間にご飯に招待された。行く時にちゃんと帰れるように長崎駅からの道をよく見ていたが、いざ終列車に乗ろうと思ったら、全然違う。カート（屋台）がいっぱいで道はふさがっている。完全に迷ってしまった私は若い男性を呼び止めて、短い研修で習った日本語で、「停車場はどこにありますか」と魔法の音を発している様な気持ちで聞いた。彼はすぐ答えてくれた（多分・・・）。そして、この困った顔を見て、親切にも私達を駅まで案内してくれた。その出会いの感動は今でも忘れない。「ここは長崎で、私の国が3年前に二つ目の原爆を落としましたでしょう！？数万人の人を殺したでしょう！？」この日本人の親切は、どれ程深い心から来ているのか。日本という国を理解するには、長い時間と畏敬の念が必要だと思った。

そして私は日本に来たことは間違いではなかった！と確信した。

ウィリアム・エルダー (William Elder)

1926年生まれ。1948年宣教師としてアメリカから来日、以来68年間日本在住。1973年東京英語いのちの電話 (TELL) 設立時の研修に関わり、1980年に関西いのちの電話の研修担当として相談員の育成に尽力し、現在もグループリーダー、スーパーバイザー、養成講座講師など関西いのちの電話の重鎮である。指導における温かい視点、そのわかりやすさには定評があるが、何より人間性の豊かさ、懐の深さに感銘を受けることが多い。大阪女学院短期大学名誉教授。

あたたかいご支援ありがとうございます

2017年6月1日～2017年10月31日までに、次の方々から社会福祉法人関西いのちの電話への寄付またはバザーなどへのご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。今後ともご支援、ご協力をお願い申し上げます。
(五十音順・敬称略)

【個人】

浅野 敏行	大塚 伸二	神谷 尚孝	幣原 直子	隅田 保	中村 勝吾	山田 孝彦
東 良三	大津 久直	川崎 和美	柴峠 隆士	竹村 武男	西中 務	山本 雅司
荒屋 昌弘	大野ひとみ	呉 美憲	島田 榮一	田辺 昌良	平栗 勲	脇坂 裕
石野 泉	岡崎 信恵	小林 文子	島田 恒	玉田 淑江	藤原 正巳	匿名 7名
石原 紘	小頭 誠	酒井 哲雄	清水 玲子	土屋 俊平	三浦 直之	
入江 保夫	岡本 喜子	佐々木良子	東海林恭子	道免 逸子	水谷恵理子	
岩坂 正雄	小野 信子	佐治美知子	笑福亭松枝	所 公子	宗行孝之介	
江崎 和子	片山 巖	左藤 章	菅谷 道子	永富 美加	森田 和典	
大坂 雅巳	鎌田 史朗	佐野 弘子	杉浦真喜子	中野 爲夫	山内 通生	
大塚 昭男	上仲 卓也	佐野由紀子	杉山 邦子	中野 桂子	山口 健一	

【団体】

阿武メンタルクリニック	菅原天満幼稚園	株式会社タイワデンキ
大阪帝塚山ライオンズクラブ	聖母被昇天修道会	社会福祉法人武田塾
大阪東十三教会	ナレッジパートナー株式会社 大阪オフィス	田中医院
大阪ロータリークラブ	ナンバかぎもとメンタルクリニック	融通念佛宗 法蔵寺
関西学院グリーンクラブ	日本カトリック教会 箕面教会	正岡クリニック
株式会社グリーン空調サービス	日本基督教団 箕面教会	(株)マツヤ
合資会社 寿屋	日本基督教団 大阪教会初穂会	渡辺クリニック
コニシ株式会社	日本聖公会石橋聖トマス教会	

バザー等協力【個人】

綾部直加子	高宮 尚子	伊達 真理	西沢 嘉祐	藤本 敦子
岡本 喜子	田尻 嘉郎	照屋 和子	花房 由喜	

バザー等協力【団体】

愛徳カルメル修道会 垂水修道院	大阪YMCA本部事務局	株式会社東リ	YMCAサンホーム
愛徳カルメル修道会 本部修道院	大阪北YMCA	富田整骨院	
江崎グリコ株式会社	大阪北摂YMCA	マルセイ精肉店	
大阪YMCA国際専門学校	大阪南YMCA	六甲山YMCA	

●他に相談員64名と相談員有志・実習生、理事・評議員が支えています。

こんなこともやりました！ありました！

2017年7月～11月の活動の一部をご紹介します。

- ・ 7月3日 日本いのちの電話連盟広報部会会議出席
- ・ 7月5日 大阪同和・人権問題企業連絡会にて講演
- ・ 8月22日 大阪府被害者支援実務担当者会議に出席
- ・ 10月13日 公開セミナー＆ボランティア説明会
- ・ 10月18日 近畿大学秋期人権講演会にて講演
- ・ 11月7日 2017年度第3回理事会
- ・ 11月11日 大阪市立我孫子南中学校にてKAIND劇団公演
読売テレビ「KAIND劇団」取材
- ・ 11月18日 宝塚市立南ひばりガ丘中学校にてPTA人権講演
- ・ 11月22日 豊中市立第八中学校「いのちの授業」にて
KAIND劇団公演
- ・ 11月24日 豊中市立第九中学校「いのちの授業」にて
KAIND劇団公演
- ・ 11月26日 日本いのちの電話連盟被災者支援研修(京都)に参加
- ・ 11月27日 大阪市自殺防止対策部会会議に出席

24時間・365日「眠らぬダイヤル」として
相談活動をおこなっています。

皆様のご支援が、電話をつなぎ「いのち」をつなげます。
いのちの電話の活動を支えてください。

歳末募金をお願いします

お振込先 ※社会福祉法人へのご寄付は税制上優遇されます。

- 座名義：社会福祉法人関西いのちの電話
- 座番号：ゆうちょ銀行 00990-3-68480
- ：三井住友銀行 十三支店(普) 998829

「自殺予防公開セミナー&ボランティア説明会」を開催

10月13日(金)クレオ大阪・西において、自殺予防公開セミナーとボランティア説明会を開催しました。セミナーでは、関西学院大学人間福祉学部教授の藤井美和氏から「生きる～人の苦しみと寄り添い～」というテーマでご講演いただきました。藤井氏はご自身の経験を例にあげ、スピリチュアルペイン（魂の痛み）には、ただ受け止め寄り添うことが大切というお話をしてくださいました。それは、電話でお話を聴く上でも、非常に大切な姿勢です。



講演後のボランティア説明会において、電話相談活動を事務局から具体的に説明し、藤井氏が大切な姿勢を示してくださいましたお陰で、参加者により深くご理解いただくことができました。一人でも多くの応募に繋がれば幸いです。

創立44周年記念

バザーを終えて



創立44周年記念バザーは11月4日、絶好の晴天に恵まれ開催することができました。会場の教会の前には10時の開会を待ちわびるお客様が多数いらっしゃいました。

教会の中には衣類、食器、アクセサリ、雑貨、バッグ、靴等が所狭しと並べられていました。中庭会場には焼きそば、おでん、豚汁、チヂミ、飲み物、フランクフルト、かやくご飯、おにぎり、ポップコーン、本、CD、子供ゲーム、鉢植え、みかんやサツマイモの模擬店が沢山のお客様を迎え大盛況でした。今年も音楽ユニットの『天然デンネズ』がミニライブで彼らのオリジナル曲の『ふるさとの音色』をはじめ沢山の曲を演奏していただき、大いに盛り上がりました。バザーに寄贈いただいた企業様、参加いただいた皆様に感謝いたします。

(バザー委員会H.O.)

中学生へ「いのちの電話」を紹介

11月11日(土)大阪市立我孫子南中学校において、KAIND劇団が朗読劇を披露しました。これはPTA人権学習「いのちの授業」として開催されたもので、全校生徒や保護者、教職員等 400名近くの方が参加されました。朗読劇の演目は「声のぬくもり」。やっとの思いで辛さを語る中学生と相談員のやり取りを通じ、一人で抱えず相談することの大切さや、いのちの電話の活動を知っていただくことができました。



また、その後の天然デンネズによるミニライブでは、代表曲「ふるさとの音色(こえ)」等、音楽を通じ、いのちの尊さを訴えかけました。会場には読売テレビの取材が入り、お昼のニュースで紹介されました。

今後もこのような機会を通じ、若い世代に広く知っていただくための活動を続けたいと考えています。

相談ボランティア募集中
あなたも私たちの活動に
参加しませんか

第54期 電話相談ボランティア養成講座のご案内

募集期間 *随時(締切は2018年3月22日(木)必着)

養成期間 *2018年4月～2020年3月(2年間)

講座内容 *1年目は、1泊研修・1日研修・週1回の講義や実習があります。
(毎週の講座は主に木曜日・18:50～20:50)

*2年目は、インターンとしての実習および各種研修があります。

電話:06-6308-6868 FAX:06-6308-6180

<http://www.kaindnew.com>

募集要項は事務局までご請求ください。ホームページからもダウンロードできます。



問いかけることと共感 6

「気持ちを響きあわせる対話」

私たちの電話相談活動の関わりは、電話でつながる相談者・かけ手との対話です。ところが、かけ手の中には、日常で話すような取り留めのない話ばかりする人がいます。信頼関係がなくても取れるコミュニケーションです。近頃、このようなかけ方をするかけ手が増えてきたように思います。

私たちの活動で大切にしているのは「対話」です。つまり、お互いを理解するために、本音と本音の話し合いです。信頼関係を築くコミュニケーションです。本音というか気持ちと気持ちを響きあわせる応答関係です。そこには、お互いが対等であること、正直・誠実であることが求められます。

しかし、最近の電話では、かけ手は時として、同じ話を何度となくかけてくる、性的快楽の相手を求めてかけてくる、世間話の相手をさせることもあります。あげくには、私たちの聴き方を批判し、怒り、支配してくることがあります。また、かけ手自身の

気に入る言葉を聴き手に言わせようと要求する電話もあります。聴き手としての相談員は、どのように応答してよいかと、受話器を持って困惑してしまいます。このようなかけ手とどのように応答すればよいか。これが今私たちのかかえる課題です。

いのちの電話の基本は、お互いに匿名であることを堅持し、1回1回の電話での出会いを大切にしています。そのために傾聴の技を磨いているのです。

この出会いを「一期一会」という言葉で肝に銘じながら、受話器を取り続けています。そして、たとえひとときであっても、かけ手の気持ちに寄り添い、関心を持って、かけ手自身の人生の一端に触れて、共感と信頼の関係が成立し、かけ手・聴き手共々に豊かな気持ちで対話を終えることを願っています。

電話でつながっている「今、ここ」で、「あなたの今の気持ちを、心の叫びを聞きたいのです」「ありのままのあなたと出会いたいのです」と、相談員はかけ手に伝えたいのです。このような私たちの祈りにも似た想いをご理解いただきたいと思います。

(長尾文雄・元大阪女学院大学/短大講師)

関西いのちの電話 第36回公開講座

あなたは、ただのあなただけで尊い存在です

講師 小澤 竹俊 氏 (めぐみ在宅クリニック 院長)

日時：2018年2月17日(土) ◎13:30開演 (13:00開場)

場所：大阪YMCA会館 2Fホール

大阪市西区土佐堀1-5-6 TEL.06-6441-0893

■申込先/TEL.06-6308-6868 FAX.06-6308-6180 E-mail:kaind@age.ac

お申込み後、当日受付にて参加協力費(1,000円)をお支払いください。尚、座席に限りがございますのであらかじめご了承ください。 ※当日申し込みの場合、参加協力費は1,200円です。



〈プロフィール〉

東京生まれ。世の中で一番、苦しんでいる人のために働きたいと願い、医師を志す。東京慈恵会医科大学医学部医学科卒業。横浜聖生病院内科・ホスピス病棟長を勤め、2006年にめぐみ在宅クリニックを開院。「自分がホスピスで学んだことを伝えたい」との思いから、2000年より学校を中心に「いのちの授業」を展開。著書に「死を前にした人に、あなたは何かができますか?」「人生の意味が見つかるノート」などがある。

この広報誌は、平成28年12月に実施されたNHK歳末たすけあい配分金を受けて作成したものです。府民(寄付者)のみなさまに感謝いたします。

編集後記

今号の巻頭記事と連載記事を通読。その時・その場での筆者の不安が感じ取れる。雨風が激しい深夜、避難勧告の連絡音がその不安を高める。夜遅く、言葉も地理も不案内な状況で、駅までの道に迷い不安が昂じる。「どうなるのだろう、どうすれば」との思いか。

親しい人の「思いやりの一言」により、見知らぬ人の「親切な眼差し」に導かれて、不安は消え去り、安心と感動に変わる。

相談員は電話を通して、かけ手の不安に寄り添う。その不安が「一期一会」の出会いで、解消できることは難しいであろうが。「いま・ここ」の時空だけでも、不安が薄れて眠れることを願って。(H.S.)

電話相談受信状況 (2017年)

受信月	6月	7月	8月	9月	10月
受信件数	2,018件	2,045件	2,152件	1,989件	1,936件
担当者数(延)	519人	544人	546人	507人	506人

社会福祉法人 関西いのちの電話

事務局：〒532-0028 大阪市淀川区十三元今里3-1-72

TEL 06-6308-6868 FAX 06-6308-6180

発行人：李清一 編集：広報委員会

ホームページ <http://www.kaindnew.com>